

芝山町 橋梁長寿命化修繕計画



令和4年3月

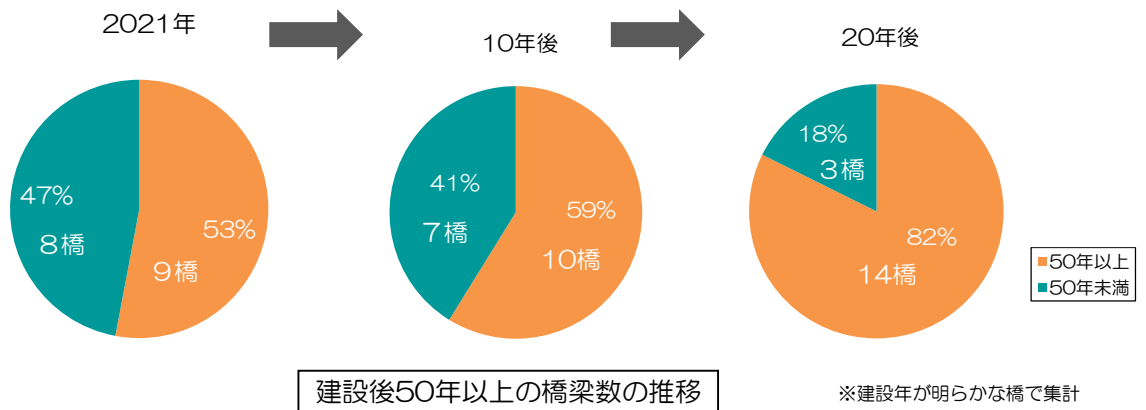
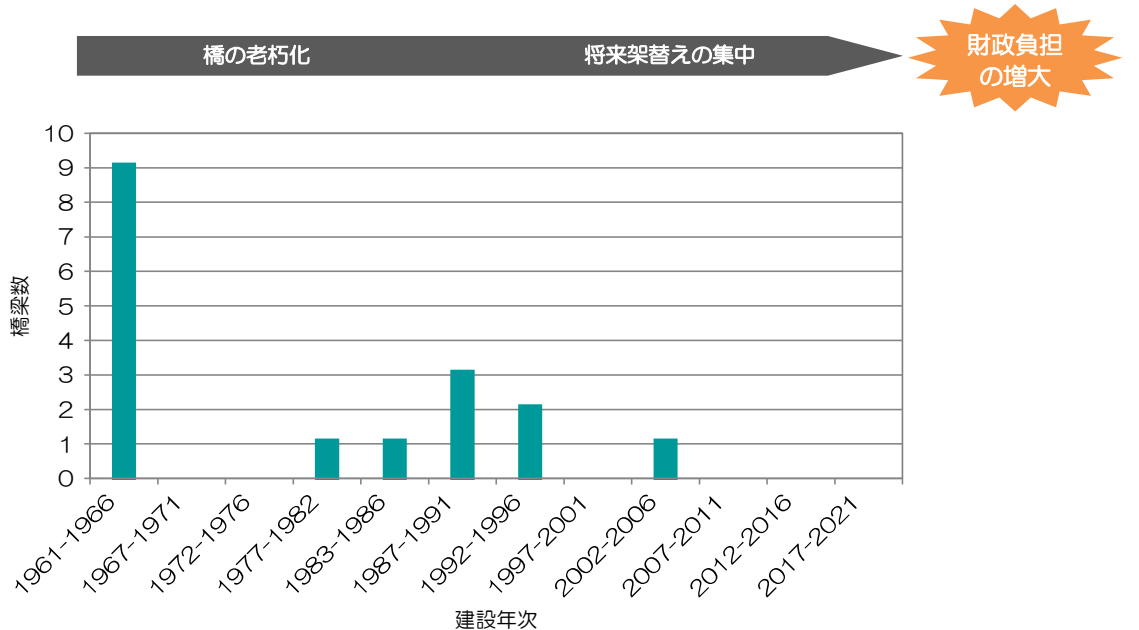
芝山町 まちづくり課

1. 橋梁長寿命化修繕計画の目的

芝山町が管理する道路橋は、全部で55橋あります。その多くは、建設年が不明であり、老朽化が進んでいきます。

今後、これらの橋の架替えが集中し、財政負担が大きくなることが懸念されています。

「橋梁長寿命化修繕計画」は、予防的な修繕を行うことで、橋の延命化、予算の平準化、維持管理コストの縮減を図り、次世代に大きな負担をかけることなく、道路交通の安全性と信頼性を、将来にわたり確保することを目的とします。



2. 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁

橋梁長寿命化修繕計画の対象とする橋は、管理橋梁55橋のうち、維持工事の範囲内で早期に対応が難しい橋長2.0m以上の49橋を対象としています。

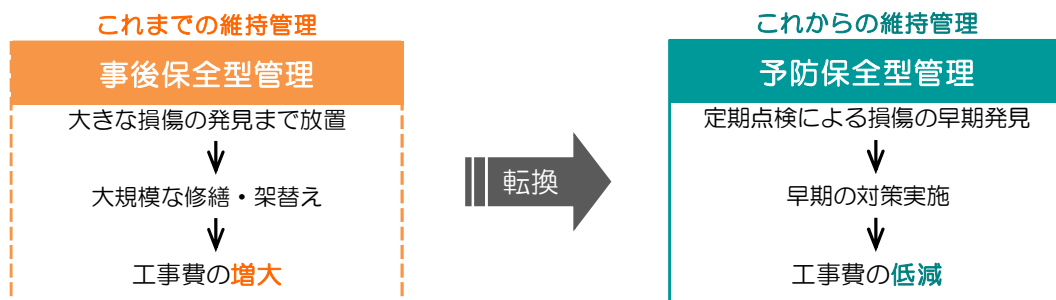
全道路橋梁数と令和3年度(2021年度)計画策定橋梁数

	1級町道	2級町道	その他町道	合計
本計画対象橋梁(第3期計画)	6	5	38	49

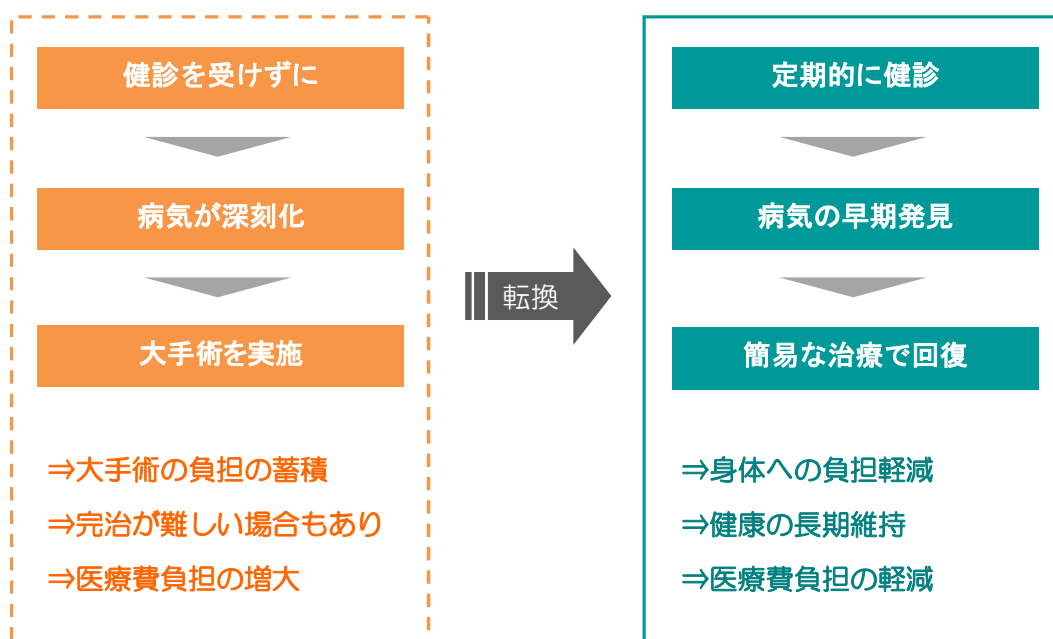
※2m未満の6橋は計画の対象外となるが、安全確保を目的とした定期点検は実施している。

3. 橋梁長寿命化修繕計画の内容

- 芝山町では、全管理橋梁に対して令和2年度に点検を行い、今後も5年間隔で点検を行うことで安全確保に努めていきます。
- 点検結果より、橋の健全性の評価を行い、交差条件や路線の状況等に応じて橋の重要性を定め、計画的な修繕が行えるよう優先順位を決めます。
- 橋の損傷が深刻化してから大規模な修繕や架替え更新を行う対症的な**事後保全型管理**から、損傷が深刻化する前に計画的な修繕を行う**予防保全型管理**へ転換し、橋の長寿命化を図るとともに、修繕に係わる費用の縮減を図ります。
- 一定期間の橋の維持管理にかかる費用であるライフサイクルコスト（LCC）の試算を行い、予防保全型の維持管理へ転換した場合の効果を確認します。



◇ 人間に例えると・・・

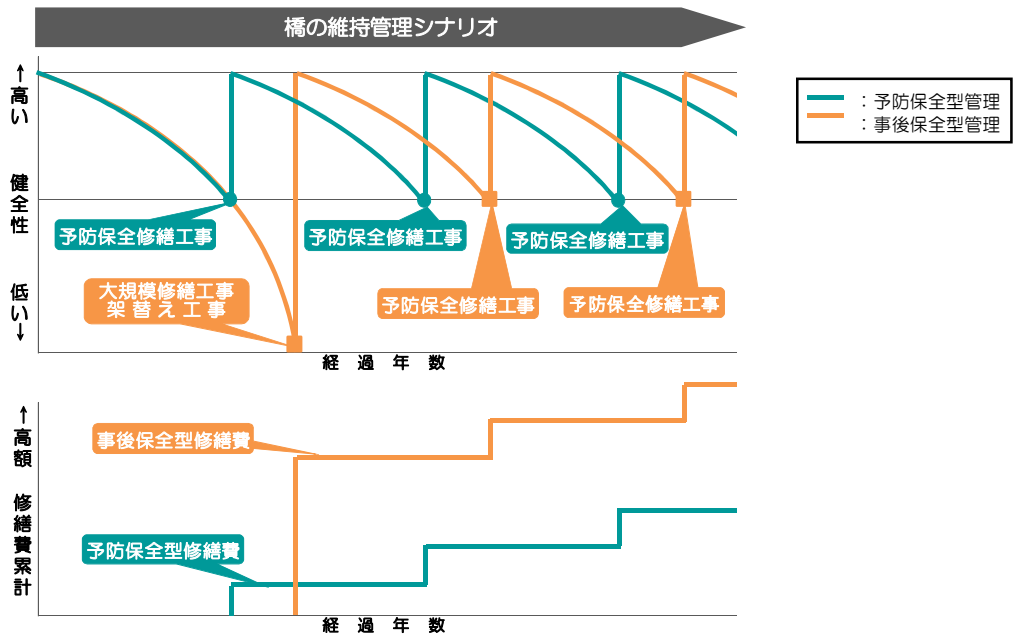


4. 橋梁長寿命化修繕計画による効果

橋の長寿命化と安全性の確保

橋の損傷が深刻化してから修繕や架替え更新を行う事後保全型管理の橋は、大きな損傷が発見されるまで放置されるため、危険な状態が続きます。

計画的な修繕を行う予防保全型管理に転換することで、**安全性の確保と長寿命化**が図れます。

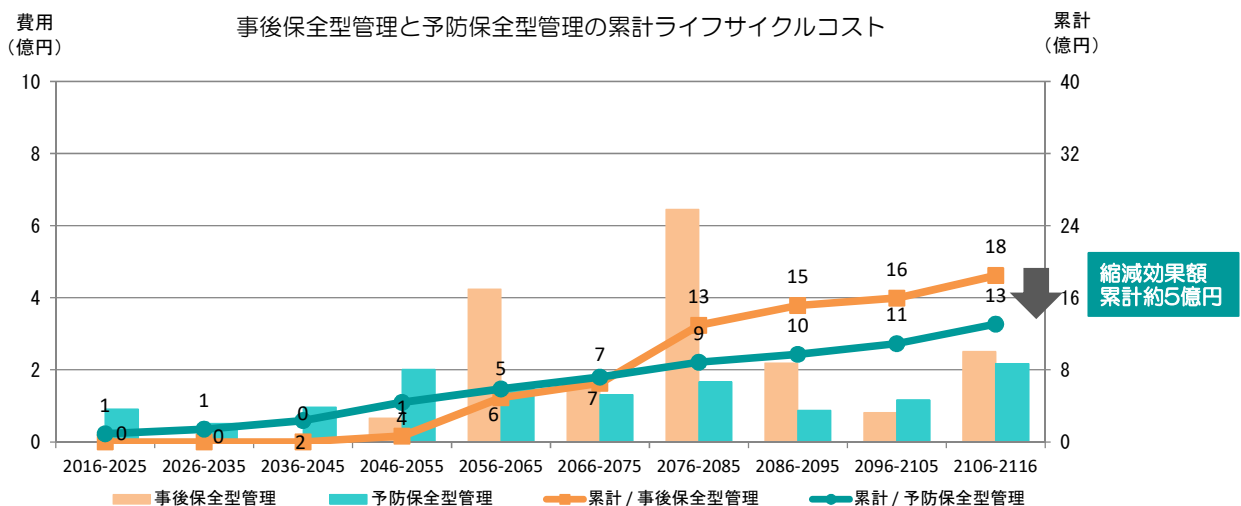


予算の平準化

対症療法的な事後保全型管理では大規模な修繕・架替え更新を行うため、単年度の事業費が大きくなります。予防保全型管理により計画的に修繕を行うことで、**予算の平準化**が図れます。

ライフサイクルコストの縮減

今後、100年間を対象としたライフサイクルコストの試算では、予防保全型管理の累計額と事後保全型管理の累計額の差は約5億円になり、非常に大きな**縮減効果**が見込めます。



※平成28年度計画のLCCを引用

計画策定担当部署：芝山町 まちづくり課
TEL 0479-77-3910
